

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 5月 6日

事業所名 タクト

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	25%	25%	個室があり、またパーティションなども活用して、特性に合わせて個別のスペースなどを確保しています。	その日利用しているお子さんの人数や特性などによっては狭いこともあるので、工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切である	75%	25%	0%	安全に活動できる人員を配置しています。	送迎も含めると職員数が少なくなることがあります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	25%	25%	現在利用しているお子さんに対しては構造化などとして配慮しています。お子さんに応じて今後も検討していきます。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	日々のミーティングやカンファレンスを行ない、必要に応じて改善を行なっています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	年1回実施し、法人のホームページにて公表しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	25%	50%		法人には第三者委員会はあるので、放課後デイも活用できるように検討していきます。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	内部で研修を実施したり、外部の研修に参加したりする機会を設けています。		
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	面談を実施し、状況やニーズの聞き取りをした上で計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	25%	50%	25%		WISCやVinelandはありますが、活用ができていないので、今後活用をしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	50%	50%	0%	職員で分担して計画を立て、前後に話し合いをするようにしています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	50%	25%	25%	お子さんの特性によっては固定化する方がいい場合もあるので、個々に合わせて対応しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	25%	25%	休日にはクッキングや外出などのイベントを実施しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	毎日ミーティングを実施して、前日や当日のお子さんの様子や注意事項を共有しています。	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	25%	50%	25%			
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%			

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	半年に1回もモニタリングを実施しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	50%	25%	0%		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	送迎時や保護者を通じて情報共有を行なっています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	50%	50%		現在医療的ケアが必要なお子さんはいないため、今後必要になれば検討します。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	0%	50%		デイは中高生が主なので就学前の事業所との連携はあまりありませんが、必要に応じて他のデイサービスなどと情報共有を実施しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	サポートブックを作成して渡したり、電話で情報提供を行ったりしています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	0%	25%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	0%	100%		特にニーズがないため実施をしていません。今後、必要性があれば検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎時、連絡帳で様子を共有しています。必要に応じて電話や面談で話をしています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25%	75%	0%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	利用開始時に説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	送迎時、連絡帳で様子を共有しています。必要に応じて電話や面談で話をしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	50%	50%		感染症対策などで実施をしていませんでしたが、今後必要に応じて検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	法人で会報『ボボロ通信』を発行しています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	利用するお子さんの特性に合わせて、言葉以外にジェスチャー、筆談、絵カードなどの視覚ツールなどを用いてコミュニケーションをしています。	

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	25%	75%		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	25%	50%	25%		策定はしていますが周知が不十分なので、周知をしていくようにします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0%	25%	75%		定期的にも実施できるようにしていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	25%	25%	アレルギーの有無や対応などの聞き取りは必ず行ない、必要に応じ対応をしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%		